

超入門決算書の見方 貸借対照表編

2023年

貸借対照表の概要

1. 資本金を100万円拠出して会社を設立した。

(借方)			(貸方)		
資産	現金	1,000,000	純資産	資本金	1,000,000
資金の運用			資金の調達		

2. 50万円の設備を購入した

(借方)			(貸方)		
資産	現金	500,000	純資産	資本金	1,000,000
資産	機械	500,000			
資金の運用			資金の調達		

3. 製品を150万円で販売して、50万円の利益が出た

(借方)			(貸方)		
流動資産	現金	1,000,000	純資産	資本金	1,000,000
固定資産	機械設備	500,000	純資産	利益剰余金	500,000
資金の運用			資金の調達		

取引の種類

取引とは、会社の活動のことを言う

1. 調達・・・株主や債権者からお金を預かること

(借方)

資産	現金	1,000,000	純資産	資本金	1,000,000
----	----	-----------	-----	-----	-----------

資金の運用

(貸方)

資金の調達

2. 投資・・・お金を使って価値を生み出すこと

(借方)

資産	現金	500,000	純資産	資本金	1,000,000
資産	機械	500,000			

資金の運用

資金の調達

3. 回収・・・生み出された商品やサービスを販売すること

(借方)

流動資産	現金	1,000,000	純資産	資本金	1,000,000
固定資産	機械設備	500,000	純資産	利益剰余金	500,000

資金の運用

資金の調達

取引の二面性

取引には、お金の増減という結果とその原因を記載することが必要

1. 調達・・・お金の増加とそのお金の出処

(借方)			(貸方)		
資産	現金	1,000,000	純資産	資本金	1,000,000
資金の運用			資金の調達		

2. 投資・・・お金の減少とお金が何に変わったか

(借方)			(貸方)		
資産	現金	500,000	純資産	資本金	1,000,000
資産	機械	500,000			
資金の運用			資金の調達		

3. 回収・・・お金の増加とそのお金が会社の成果によるもの

(借方)			(貸方)		
流動資産	現金	1,000,000	純資産	資本金	1,000,000
固定資産	機械設備	500,000	純資産	利益剰余金	500,000
資金の運用			資金の調達		

複式簿記

取引における二つの側面を同時に記録する

この二つの側面を借方と貸方に、それぞれ別の勘定科目で記載する

(借方)

(貸方)

流動資産	現金	1,500,000	流動負債	短期借入金	100,000
固定資産	機械設備	1,000,000	固定負債	長期借入金	900,000
			純資産	資本金	1,000,000
			純資産	利益剰余金	500,000

勘定科目って何？

勘定科目の種類 …… 資産、負債、資本、収益、費用
借方科目が、資産と収益
(借方) (貸方) 貸方科目が、負債と資本と費用

資産	負債
	資本
収益	費用



ここにあればプラスを意味する
逆にあるとマイナスを意味する

資産……お金や製品、機械等 将来会社に、お金の増加をもたらすもの

負債……借入金等 将来会社に、お金の減少をもたらすもの

資本……株主が払い込んだ分と会社が今まで増やしてきた配当していない部分

収益……会社が生み出した価値の対価としてお金が増えること

費用……収益を上げるためにお金を使うこと

BSとPL

(借方) (貸方)

資産	負債
	資本
収益	費用



貸借対照表 (BS)

損益計算書 (PL)

ストック科目・・・資産、負債、資本
ある時点でどのくらい残っているか

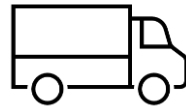
フロー科目・・・収益、費用
ある期間にどのくらい増減したか

取引の記録

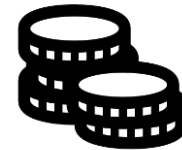
取引をいつ記憶するかによって、財務諸表の数字が変わる



注文時点
(発生主義)



入金権利を
得た時点
(実現主義)



入金時点
(現金主義)

日本の会計基準では、費用は「発生主義」で、収益は「実現主義」で認識するのが原則

当期の取引は当期計上(発生主義)し、当期の取引のうち実現した収益のみを計上する(実現主義)という図式となります。

費用収益対応の原則ー減価償却

例:工場建設の場合

10億円で工場を建設

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
収益	2億円	2億円	2億円	2億円	2億円
費用	10億円	0円	0円	0円	0円
合計	-8億円	+2億円	+2億円	+2億円	+2億円

工場を建設した初年度に多額の赤字が計上されてしまう



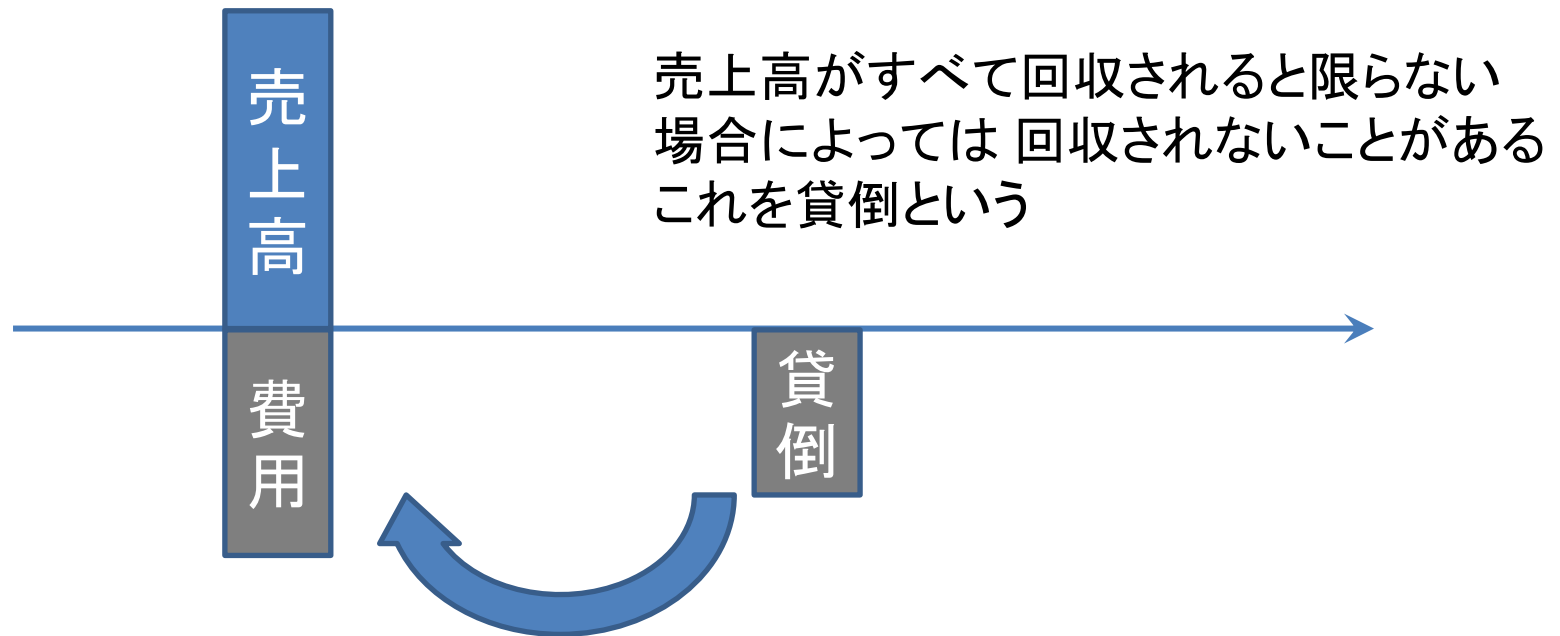
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
収益	2億円	2億円	2億円	2億円	2億円
費用	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
合計	+1億円	+1億円	+1億円	+1億円	+1億円

将来の収益を生み出すためにかかった支出は、将来の利益に対応させて配分し将来の費用として計上する
逆に、まだお金を支払っていない場合でも、現在の収益に対応させて将来の支出を当期の費用として繰り上げ計上することもあ

費用は発生主義で計上し、収益は実現主義で計上する。
発生した費用を実現した収益に対応させて配分することを費用収益対応の原則という

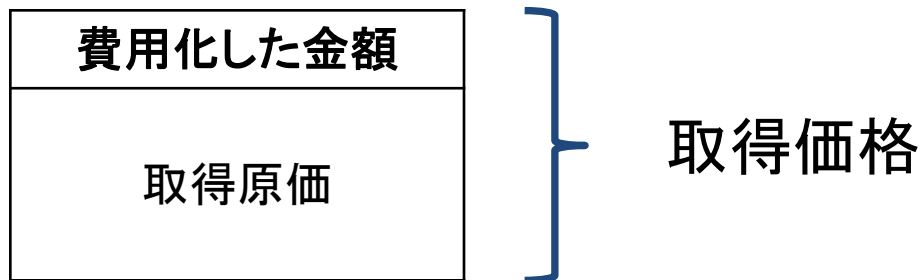
費用収益対応の原則－引当金

減価償却は、現在の支出を将来の費用として繰り延べるもの



引当金とは、将来見込まれる支出を当期の収益に対応させるために
費用として計上するもの

取引をいくらで記録するか



取得原価主義

資産を取得原価で評価する考え方

原則として、取得原価主義を採用している

時価主義

貸借対照表を作成する時の期末時点の値段で評価する考え方

時価のある有価証券は時価で評価し、金銭債権は回収可能額で評価する

時価主義 具体的には

有価証券及び金銭債権の評価

1. 売買目的有価証券

いつでも売ろうと思えば売れるため、実際に売ったかどうかではなく時価の推移で投資の成果を判断する。そのため、売買目的有価証券は時価で評価され、その差額は当期の損益となる。

2. 満期保有債権

償却原価法によって評価され、評価差額は利息として当期の利益になる。

例：発行価額 450円 額面 500円 期間 5年の社債を購入した。

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
評価額	460円	470円	480円	490円	500円
(加算額)	10円	10円	10円	10円	10円

3. 子会社・関連会社株式

子会社・関連会社株式は、取得原価で評価する。

4. その他有価証券

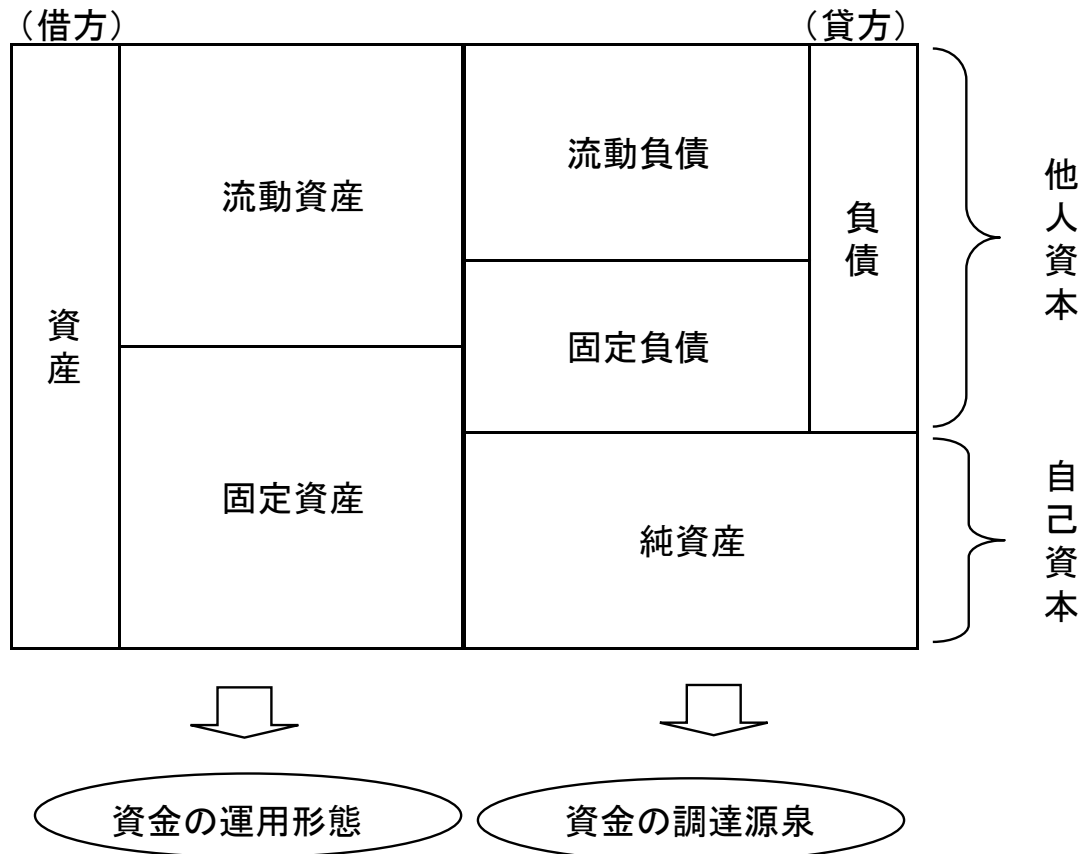
将来のお金の増加額を示すために時価で評価する。

一方、評価差額は投資の成果とは言えないので貸借対照表の純資産の部の「評価・換算差額等」に計上する。

貸借対照表とは

貸借対照表:BS(Balance Sheet)

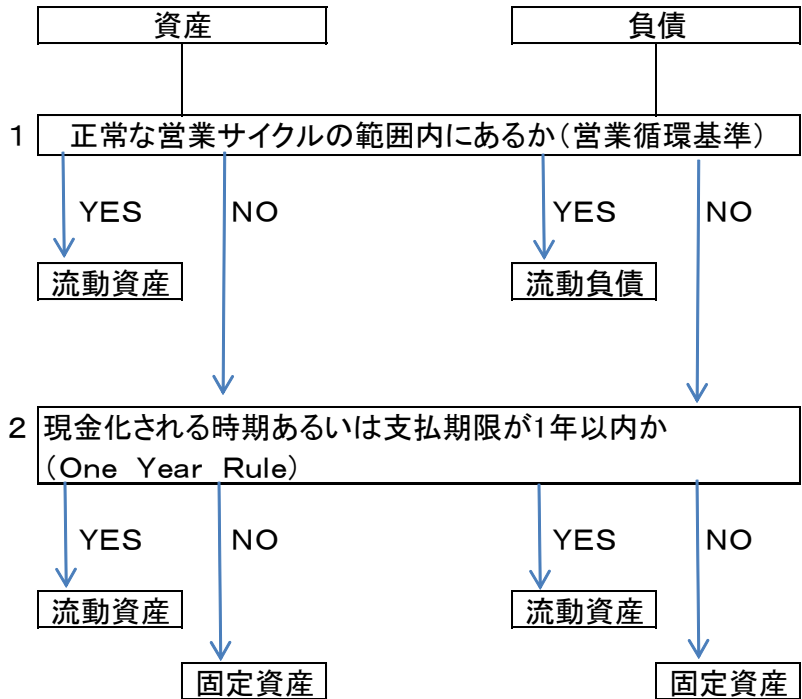
一定時点での財務の状態を表したものであり、 $資産 = 負債 + 純資産$ の貸借対照表等式が成立する



貸借対照表 チェックポイント1

流動と固定

資産	流動資産	流動負債	負債
		固定負債	
	固定資産	資本	
	繰延資産		



現金→棚卸資産→売上債権→現金という正常な営業循環過程の中にある資産と負債は流動資産・流動負債とする
受取手形・売掛金・棚卸資産・支払手形・買掛金など

決算日を基準に1年以内に現金可能な資産を流動資産、同じく1年以内に支払いもしくは返済しなければならない負債を流動負債とする

結局 流動、固定とは お金になるまでの期間が短いか長いかということ

貸借対照表 チェックポイント2 流動資産

資産	流動資産	流動負債	負債
	固定資産	固定負債	
	繰延資産	純資産	

勘定科目	内容
1. 現金及び預金	手元現金と銀行へ預けている普通預金などの金額
2. 受取手形	得意先から受け取った約束手形などの証券の金額
3. 売掛金	売上代金のうち現金や手形で回収されていない金額
4. 有価証券	売買によって利益を得ることを目的に株式などに投資した金額
5. 棚卸資産	売却されていない商品や製品、また製造途中の仕掛品や原材料の金額
6. その他資産	1～5以外の流動資産の金額。前払い費用や仮払いなど
7. 貸倒引当金(△)	売上債権が回収不能となり貸倒となった場合に、安全性を確保するために引当てる金額。評価性引当金

売上債権 当座資産

流動資産の中をさらに分類すると次のようになります。

1. 当座資産 … お金に関わる流動資産（現金預金、受取手形、売掛金、有価証券等）
… その中で未回収の部分を(売上債権)という。
2. 棚卸資産 … 物に関わる流動資産（製品、商品、仕掛品、材料等）
3. その他

実際に見てみよう

良品計画（連結） (単位：百万円)

現金及び預金	90,162	34.4%
受取手形及び売掛金	10,268	3.9%
商品	129,202	49.3%
仕掛品	297	0.1%
貯蔵品	59	0.0%
未収入金	15,829	6.0%
その他	16,405	6.3%
貸倒引当金	-20	0.0%
流動資産合計	262,206	100.0%

当座資産	38.3%
棚卸資産	49.4%
合計	87.7%

武田薬品工業（連結） (単位：百万円)

現金及び現金同等物	849,695	32.8%
営業債権及びその他債権	696,644	26.9%
棚卸資産	853,167	32.9%
その他の金融資産	25,305	1.0%
その他の流動資産	141,099	5.4%
未収法人所得税	27,733	1.1%
流動資産合計	2,593,642	100.0%

当座資産	59.6%
棚卸資産	32.9%
合計	92.5%

日本製鉄（連結） (単位：百万円)

現金及び現金同等物	551,049	15.7%
営業債権及びその他債権	939,406	26.7%
棚卸資産	1,756,589	50.0%
その他の金融資産	41,357	1.2%
その他の流動資産	226,253	6.4%
流動資産合計	3,514,655	100.0%

当座資産	42.4%
棚卸資産	50.0%
合計	92.4%

任天堂（連結） (単位：百万円)

現金及び預金	1,206,506	56.7%
受取手形及び売掛金	141,087	6.6%
有価証券	504,385	23.7%
棚卸資産	204,183	9.6%
その他	70,147	3.3%
貸倒引当金	-98	0.0%
流動資産合計	2,126,212	100.0%

当座資産	87.1%
棚卸資産	9.6%
合計	96.7%

回転

月100万円、年間1,200万円の売上があるが回収の期間が異なる場合

		1月	2月	3月	4月	5月	6月		
回収翌月	売上	100	100	100	100	100	100	売掛金	100
	入金	0	100	100	100	100	100	回転率	12回転
	売掛金	100	100	100	100	100	100	回転期間	1ヶ月
回収3ヶ月後	売上	100	100	100	100	100	100	売掛金	300
	入金	0	0	0	100	100	100	回転率	4回転
	売掛金	100	200	300	300	300	300	回転期間	3ヶ月
回収6ヶ月後	売上	100	100	100	100	100	100	売掛金	600
	入金	0	0	0	0	0	0	回転率	2回転
	売掛金	100	200	300	400	500	600	回転期間	6ヶ月

回転率は大きければ大きいほど良い
 回転期間は短ければ短い方が良い

貸借対照表 チェックポイント3 固定資産

資産	流動資産	流動負債	負債
	固定資産	固定負債	
	繰延資産	資本	

	内容
1. 有形固定資産	建物、建築物、機械装置、土地などの現物資産。建築中の建物も建設仮勘定として計上
2. 無形固定資産	現物ではない法律上の権利。電話加入権、商標権、のれん等
3. 投資等	上記1・2に属さない固定資産。投資有価証券・子会社株式・長期化貸付金など

のれんとは

B社の買収を行う

そのためにはまず資産の時価を評価する

資産 200	負債 100
	資本 100

B社の資本100が本来買収価格になるはずである

しかし、将来性を買って150で買収した

この差(150-100)の50がのれんとなる

借方

貸方

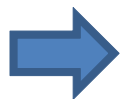
資産 200	負債 100
のれん 50	現金預金 150

貸借対照表 チェックポイント4 繰延資産

繰延資産

次の3つの要件を満たした費用

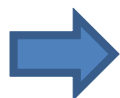
- ①支払いが済んでいること
- ②サービスを受けていること
- ③その効果が将来に及ぶもの



繰延資産とするか費用とするかは
会社が任意に選択できる

ほかの資産と比べると

- ①換金できない
- ②売却できない
- ③サービスを求める権利もない



財産としての価値はない

商法上認められる繰延資産

勘定科目	内容	償却期間
創立費	定款の作成、当期の費用などの設立費用	5年以内
開業費	設立後営業開始までの開業準備の費用	5年以内
新株発行費	新株を発行するために直接かかった費用	3年以内
社債発行費	社債を発行するために直接かかった費用	3年以内かつ社債の償却期限内
社債発行差金	社債を割引発行した場合の額面と発行価格との差額	社債の償還期限内
開発費	新技術、市場開拓などのために特別支出した費用	5年以内
試験研究費	新製品、新技術の試験研究のために特別に支出した費用	3年以内
建設利息	開業前に株主に配当した利息で商法の規定に従って例外的に支出したもの	—

貸借対照表 チェックポイント5 流動負債

資産	流動資産	流動負債	負債
	固定資産	固定負債	
	繰延資産	純資産	

* 流動性配列

勘定科目	内容
1. 支払手形	仕入先へ振り出した手形証券の金額
2. 買掛金	仕入れ代金のうち、現金や手形で支払っていない金額
3. 短期借入金	1年以内に返済される借入金 ①借入期間が1年未満 ②長期借入金のうち1年以内に返済する予定
4. 未払金	主たる事業以外の物品・サービス受入れによる未払金額
5. 未払費用	継続的な契約に基づいて受けるサービスに対しての未払金額
6. 未払法人税等	支払額が確定した法人税、住民税、事業税の未払金額
7. 前受金	まだ販売していない商品に対して入金された金額
8. 預り金	従業員や取引などから一時預った金銭等でその後返還すべき金額
9. 賞与引当金	将来支払う予定の賞与のうち当期中に負担すべきもの見積金額
10. その他	上記以外の流動負債の金額

} 買入債務(又は仕入債務)

買入債務又は仕入債務 …… 売上債権の反対。今後支払わなければならない仕入れ代金の未払い分

流動比率と当座比率

流動比率:短期の安全性を見る指標

一年以内に現金できる流動資産と一年以内に返さなければならない流動負債を比較する。

流動資産 \div 流動負債で、200%以上が望ましいと言われる

当座比率:短期の安全性を見る指標で当座資産を対象にする

当座資産と一年以内に返さなければならない流動負債を比較する。

当座資産 \div 流動負債で、100%以上が望ましいと言われる

	(借方)		(貸方)
資産	流動資産	流動負債	負債
		固定負債	
	固定資産	純資産	

実際に見てみよう

良品計画（連結）（単位：百万円）

流動資産	262,206	流動比率	332.2%
当座資産	100,430	当座比率	127.3%
流動負債	78,923		

武田薬品工業（連結）（単位：百万円）

流動資産	2,593,642	流動比率	120.9%
当座資産	1,546,339	当座比率	72.1%
流動負債	2,145,730		

日本製鉄（連結）（単位：百万円）

流動資産	3,514,655	流動比率	174.1%
当座資産	1,490,455	当座比率	73.8%
流動負債	2,018,630		

任天堂（連結）（単位：百万円）

流動資産	2,126,212	流動比率	393.5%
当座資産	1,851,978	当座比率	342.8%
流動負債	540,276		

貸借対照表 チェックポイント6 固定負債

資産	流動資産	流動負債	負債
	固定資産	固定負債	
	繰延資産	純資産	

勘定科目	内容
1. 社債	社債券を発行して一般投資家から調達した金額
2. 長期借入金	銀行など金融機関からの借入金額
3. 退職給付引当金	将来支払う予定の退職金のうち当期中に負担すべきものの見積金額
4. その他	上記以外の流動負債の金額固定負債

社債も長期借入金も借金であることは同じ
 投資家など市場からの調達を直接金融
 金融機関からの調達を間接金融

固定比率と固定長期適合比率

固定比率：長期の安全性を見る指標

すぐに現金化出来ない固定資産と返済期日がない株主資本を比較する。
固定資産 \div 株主資本で、低いほうが良い。

固定長期適合比率：長期の安全性を見る指標で固定費率よりもゆるい

すぐに現金化出来ない固定資産と返済期日がない株主資本と固定負債の合計額を比較する。
固定資産 \div (株主資本 + 固定負債) で、100%以下でない問題

(借方)		(貸方)	
資産	流動資産	流動負債	負債
		固定負債	
	固定資産	純資産	

実際に見てみよう

良品計画（連結）（単位：百万円）

固定資産	137,118
株主資本	224,805
固定負債	75,548

固定比率	61.0%
固定長期適合比率	45.7%

日本製鉄（連結）（単位：百万円）

固定資産	5,237,691
株主資本	3,269,869
固定負債	2,836,707

固定比率	160.2%
固定長期適合比率	85.8%

武田薬品工業（連結）（単位：百万円）

固定資産	10,584,376
株主資本	5,683,019
固定負債	5,348,764

固定比率	186.2%
固定長期適合比率	95.9%

任天堂（連結）（単位：百万円）

固定資産	536,172
株主資本	2,003,469
固定負債	52,347

固定比率	26.8%
固定長期適合比率	26.1%

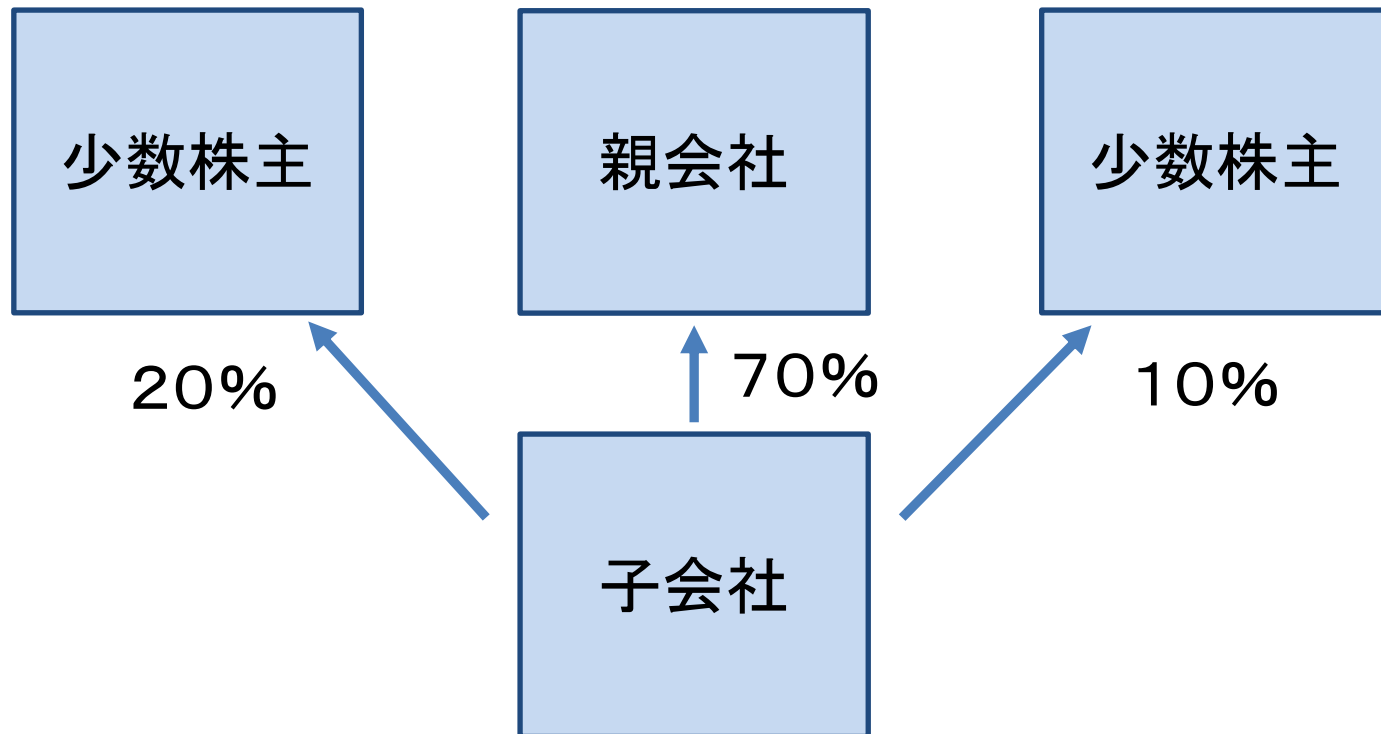
貸借対照表 チェックポイント7 純資産

資産	流動資産	流動負債	負債
	固定資産	固定負債	
	繰延資産	純資産	

株主資本	資本金	株主を発行した時に株主が払い込んだお金のうち資本金として決めた金額
	資本剰余金	株主が払い込んだお金のうち資本金としなかった金額
	利益剰余金	会社が利益を出して貯めてきた分金額
	自己株式	株主から自社の株式を買い取った金額(マイナスで計上)
評価換算差額		当期の損益に反映されない資産や負債にかかる評価差額を純資産に計上するための区分
新株予約権		発行した企業に対して一定期間内に権利を行使することで、その企業の株式について一定の価格を支払うことで交付を受けられる権利のこと
少数株主持分		連結子会社の正味の財産(純資産※)の内、少数株主に帰属する持分

少数株主持分とは

少数株主は、子会社の株主のうち親会社以外の人や会社のこと
子会社の資本のうち少数株主の持分に相当する部分を少数株主持分という



株主資本等変動計算書

資産	流動資産	流動負債	負債
	固定資産	固定負債	
	繰延資産	純資産	

株主資本等変動計算書は、貸借対照表の純資産の部の変動状況を示す財務諸表のこと

株主資本等変動計算書

	株主資本					評価・換算差額等			評価換算差額等合計	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定				
前期末残高	×××	×××	×××	△××	×××	×××	×××	×××	×××	×××	×××	×××
当期変動額												
新株の発行	×××	×××			×××							×××
剰余金の配当			△××		△××							△××
当期純利益			×××									×××
×××												
自己株式の処分				×××								×××
その他			×××		×××							×××
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						×××	×××	×××	×××	△××	×××	×××
当期変動額合計	×××	×××	×××	—	×××	×××	×××	×××	×××	△××	×××	×××
当期変動額合計	×××	×××	×××	△××	×××	×××	×××	×××	×××	×××	×××	×××

株主資本比率

株主資本比率:財務の安定性を見る指標

株主資本と総資産(総資本)を比較する。

株主資本 \div 総資産(総資本)で、高ければ高いほど財務的安定度は高い

(借方)		(貸方)	
資産	流動資産	流動負債	負債
		固定負債	
	固定資産	純資産	

実際に見てみよう

良品計画（連結）（単位：百万円）

総資産（総資本）	399,324
株主資本	224,805

株主資本比率	56.3%
--------	-------

日本製鉄（連結）（単位：百万円）

総資産（総資本）	8,752,346
株主資本	3,269,869

株主資本比率	37.4%
--------	-------

武田薬品工業（連結）（単位：百万円）

総資産（総資本）	13,178,018
株主資本	5,683,019

株主資本比率	43.1%
--------	-------

任天堂（連結）（単位：百万円）

総資産（総資本）	2,662,384
株主資本	2,003,469

株主資本比率	75.3%
--------	-------

貸借対照表(BS)の構造: 振り返り

貸借対照表とは一定時点での財務の状態を表したものであり、 $資産 = 負債 + 純資産$ の貸借対照表等式が成立する

横の関係



流動資産	流動負債
当座資産	買入債務(仕入債務)
売上債権	
棚卸資産	その他
その他	固定負債
固定資産	
有形固定資産	
	純資産
無形固定資産	株主資本
	資本金
	剰余金
投資等	
	評価・換算差額等

ポイント

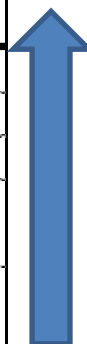
1. 縦の関係

- 株主資本比率が高いほうが財務的な安定度は高い

2. 横の関係

- 流動資産や当座資産が流動負債よりも多い方が短期的な支払い余力は高い
- 固定資産よりも株主資本+固定負債が多い方が、すぐお金に変えることが出来ない固定資産を長期資本で補っている

縦の関係



(資金の運用状況)

(資金の調達状況)